

友の会だより

No.65
2021.10

茨城県陶芸美術館友の会

展覧会
案内

開館20周年記念事業 笠間陶芸大賞展

会期：令和3年10月16日(土)～令和4年1月16日(日)
主催：笠間陶芸大賞展実行委員会、茨城県陶芸美術館
共催：笠間市

協賛(五十音順)：株式会社葵建設工業、昱株式会社茨城支店、茨城トヨタ株式会社、株式会社ウィンド・パワー・グループ、笠間工芸の丘株式会社、笠間の家、川根設備工業株式会社、有限会社カンダツ殖産、有限会社関東田名見運輸、Keiko Art International、株式会社常陽銀行、昭和造園土木株式会社、シンリュウ株式会社、関彰商事株式会社、第一熱学建設株式会社、株式会社筑波銀行、日東電気株式会社、株式会社坂東太郎、広沢土地倉庫株式会社

助成：芸術文化振興基金

後援：朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、NHK水戸放送局、読売新聞水戸支局(五十音順)

休館日：毎週月曜日(ただし1月3日、10日は開館)、年末年始(12月27日～1月1日)、1月11日(火)

「笠間」の名を冠する陶芸の公募展として今回初めて実施する笠間陶芸大賞展は、伝統、オブジェ、食器等のジャンルの区別を取り払い、陶芸のフィールド全体を見渡します。

この公募展は一部公募部門と二部指名コンペ部門からなり、一部公募部門では、全国より応募を受けた548件の作品から147件の入選、入賞作を展示します。大賞には、田中陽子氏の作品「影華」が選ばれています。

二部指名コンペ部門は、「生活の器・食器」をキーワードに、5名の推薦委員が推薦した30名の作家の作品を紹介します。30名のうち、大賞を受賞した小野哲平氏を含む8名の作家が賞を受賞しています。

一・二部合わせて177件の出品作により、現代陶芸の最新の到達点をご覧ください。



▲田中陽子「影華」
(一部公募部門 大賞)



▲小野哲平「ポット」ほか
(二部指名コンペ部門 大賞)



▲アイザワリエ「縹」
(一部公募部門 準大賞)



▲山野辺彩「ティーセット(indigo)」ほか
(二部指名コンペ部門 準大賞)

展覧会関連催事のご案内

*詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください。お問い合わせください。

●一部公募部門 入賞作家アーティストトーク「制作秘話を明かします」

日時：10月17日(日)13時30分～ 田中陽子氏、大石早矢香氏、稲葉周子氏

10月30日(土)13時30分～ アイザワリエ氏、中井波花氏、高橋朋子氏

場所：1階多目的ホール、地下1階企画展示室 参加費：無料(別途観覧料が必要となります。)

●二部指名コンペ部門 山野辺彩(準大賞作家)×額賀章夫(推薦委員)クロストーク

日時：10月31日(日)13時30分～ 場所：2階県民ギャラリー

参加費：無料

●二部指名コンペ部門 小野哲平(大賞作家)×笠間作家のクロストーク(YouTubeで公開)

大賞作家の小野哲平氏と笠間の作家(7名程度)が作品を持ち寄り、「なぜ、私はつくるのか」をテーマに語らう懇談会(非公開)の様子を、当館YouTubeにて公開します。12月初旬公開予定(公開時は当館SNSで告知します)。

*新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況により予告なくイベント等を中止・延期する場合がございます。変更の場合には、当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

茨城県陶芸美術館ホームページ <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

白磁に魅せられて

垣沼千亜季さん

シャープで繊細な表現が可能な磁土の特性を生かした作品を制作している垣沼千亜季さんにお話を伺いました。今回は緊急事態宣言下であることから、文書・電話での取材となりました。



ご出身は

茨城県龍ケ崎市です。

陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください。

大学3年生の時に陶芸の授業を受けたことがきっかけです。元々は洋画専攻だったのですが、磁器土の白さや釉薬の色といった陶芸材料の美しさに惹かれて制作をするようになりました。卒業時にもっと陶芸を本格的に学びたいと考え、意匠研へ進みました。多治見では全国から学びに来た同級生や地元の人達との出会いから、沢山の刺激を受けました。同級生と展示を見に行き、陶芸について語り合ったり、地元の製陶所でアルバイトをしたりと、制作の糧となる経験ができました。3年間意匠研で学んだ後は、多治見工業高校で講師をしながら制作をしていました。働きながら制作を続ける大変さに悩むこともありましたが、周囲の人から作り続ける姿勢も学んだ時期でした。そして2012年に笠間高校へ赴任したことがきっかけで笠間で生活をするようになりました。一度茨城を離れて戻ってきたことで、茨城で生まれ育ちながらも、気づかなかった土地の魅力に出会えたのが笠間でした。仕事をして、制作をして、日々を過ごすという「生活と制作」ができる笠間で暮らしていこうと、工房兼住居を構えました。

作品作りについてお聞かせ下さい。

私は鑄込みという技法で作っています。石膏型に泥を流し込む、型から生地を外す、白く透光性のある白磁に焼き上がるまでのひとつひとつの作業がとても楽しいです。土を混ぜる時、生地を型から外す時、一つの作業でも気を抜けば結果は焼き上がりに表れます。ごまかしのきかない白磁は扱いの難しさをいつも感じますが、削る作業の楽しさと焼き上がりの美しさが私にとって白磁の魅力です。最近は作業環境も工夫し、削りカスを捨てやすくした机を自作するなどしています。

これからの方向性についてお聞かせ下さい。

私の制作スタイルは仕事をしながら作品作りをするというものです。陶芸だけではない社会の中にいることで様々な価値観に触れ刺激を受けます。そして工房兼住居を建てたことで、生活空間の中でのやきものの在り方も意識するようになりました。最近は白磁の透光性を生かして照明をよく作っています。また、型だけでなくろくろでかたちを作るようにもなり、酒器や抹茶碗、版画作家と協働で風鈴を作ったりしています。今後は植物と合わせたり、絵画と合わせた作品など、やりたいアイデアは沢山あります。私にとって作る行為は自己認識です。今の私が何を考え、感じているのか、素材と関わりながらその時々々の答えを表現しようとしています。これから冬の個展に向けてどんな表現ができるのか、自分自身も楽しみにしながら、新しい工房で制作を始めます。



プロフィール

- 1982 茨城県に生まれる
- 2005 筑波大学芸術専門学群卒業
- 2008 多治見市陶磁器意匠研究所終了
- 2011 国際陶磁器展美濃入選
- 2012 「MINO CERAMICS NOW」(岐阜県現代陶芸美術館) 出品
- 2013 神戸ビエンナーレ現代陶芸コンペティション奨励賞受賞
そば猪口アート公募展審査員賞受賞
- 2015 第23回日本陶芸展出品



『陶芸家対談』 これまでのあゆみ

陶芸美術館のオープン（平成12年4月15日）とともに発足した陶芸美術館友の会も20年を過ぎました。この間、「友の会だより」で陶芸家対談を掲載してきました。これまで登場していただきました方々をご紹介します。

※敬称は略させていただきます

1	松井康成	陶の心を語る	33	田山精一	鈎窯釉に魅了されてこの道歩んで来ました
2	伊藤東彦	限りなき陶の美を求めて	34	菊地弘	グローバルな焼き物づくりを繋いでいきたい
3	伊藤公象	土の精の美しさにひかれて	35	藤本均	陶芸家ではない「ものづくり家」でありたい
4	中野晃嗣	陶壁に想いをこめて	36	ランディ・E・ウージ	自由な遊び心で焼き物をつくりたい…その原点は愛
5	荒田耕治	土と炎の妙技	37	浦口雅行	海の煌めきから 青磁の深淵を捉える
6	ゲルト・クナツパー	太陽と海	38	酒井芳樹	新しい柿釉の究明に挑む
7	堤綾子	土と火が奏でるハーモニー	39	小林東洋	山を登るように散歩するように 面白いものを作りたい
8	柳橋進・修二	幾何学模様が織りなす美 氷流紋による曲線美	40	筒井修	やきものは使いやすさと自分らしさとのせめぎあい
9	梶谷胖	グランドキャニオンに魅せられて	41	羽石修二	焼き締め陶を一途に追求する
10	田中荘式	自然との語らいの中で生まれる美	42	ローランド・サクセ	焼き物の考え方や技法にとらわれないで自由に作り続けたい
11	下山田昌右	自然の神秘性を求めて	43	井上憲一郎	作りたいものを作り 焼き物に社会性をもたせたい
12	相馬晃	鎬が生み出す美	44	飯沼耕市	未完のままで…次のステップへ
13	黒田隆	使いやすさと美しさを求めて	45	南部漸	陶器をキャンパスにして画を描く
14	福野道隆	伝統の中から新たな美を求めて	46	小堤晶子	デザインとやきもの…融合しちゃった
15	丸山輝悦	形と絵の一体感を目指して	47	橋口信弘	軽快な織部を作っていきたい
16	清水正章	美しさを求めて かぶら文様	48	五味謙二	土の可塑性に新たな造形を見出す
17	井上壽博	陶の美・雪の美	49	佐藤雅之	土のかたまり感と危うさを同時に表現したい
18	小林政美	思いを形にする	50	町田幸	磁器の白さに様々な質感をもとめたい
19	作家対談シリーズ特集		51	穂高隆児	「料理と焼物」との完結をめざす
20	中山正	自分の世界を表現する	52	大貫博之	「形に残る仕事」を続けていきたい
21	植竹敏	自然の中であるがままに	53	Keicondo	自然の色彩をテーマに、食を生かす器を作り続けたい
22	寺本守	自分を表現するための土	54	酒井敦志之	焼物へのこだわりを決めずに自由で自然でありたい
23	小林浩・一富美	土から生まれた青瓷、そしてふしぎの森の仲間たち	55	大野佳典	限りなくシンプルに ひたむきに思いを刻みたい
24	渡邊信雄	海と流れる雲をかたちに	56	須藤訓史	土の持つ材質を造形に活かす
25	小峰尚	土に仕事をしてもらおう	57	高橋協子	民話や伝説の世界を形（形象化）にする
26	佐藤剛	ゆっくりと育てるようにこしらえる	58	菅原良子	彩色と線象嵌に魅せられて
27	小林征児	もうひとつの仕事—駄駄男—	59	久米みどり	土の魅力に惹きつけられて
28	伊藤知香	《気》が陶をつくる	60	加我光司	環境との調和を模索する作陶
29	田中教克	笠間の土に魅せられて	61	山崎さおり	お茶の時間を豊かにしたい
30	山路和夫	ライフワークとしての「陶芸」を「工芸」の域に	62	近藤文	人生に無駄はない
31	八十島雅樹	多彩な技法・釉薬で使いやすい器を目指す	63	井上英基	異文化の中で作り上げた碧彩釉
32	額賀章夫	手作りの良さを活かし普通のを普通に			



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

● アトリエ・フラスカ 0296-72-9322

● 笠間工芸の丘 0296-70-1313

● 10月6日(水)～10月17日(日) 陶・漆・木 コラボ展

● 10月13日(水)～10月24日(日) 小野三枝子 染織物展

● 10月20日(水)～11月7日(日)

エダマメWORKS企画 機械展

● 10月27日(水)～11月7日(日) 盛澄子展

● 11月10日(水)～11月21日(日) 笠間焼伝統工芸土展

● 11月24日(水)～12月5日(日) 河野迪夫展

● 12月1日(水)～12月22日(水) 千支展

● 1月2日(日)～1月23日(日) 豆皿展

● 1月2日(日)～1月23日(日) ひとにやさしいうつわ

● 笠間みんげい 0296-72-9280

● かつら陶芸 0296-72-6688

● ギャラリー桜 0296-72-0803

● 10月 Monthly企画 清水夏子展

● 11月 Monthly企画 古谷萌仁香展

● 1月2日(日)～2月27日(日) 陶の雛 麻衣子雛展

● ギャラリー爽鳳SOHO 0296-72-9121

● ギャラリー舞台 0296-73-0700

● 笠間焼窯元共販センター 0296-72-5665

● きらら館 0296-72-3109

● 9月28日(火)～10月11日(月) 栗原節夫 作陶展

● 10月13日(水)～10月24日(日) 武内雅之・光代 作陶展

● 10月26日(火)～11月7日(日) 大崎透

● 11月9日(火)～11月21日(日)

中島健蔵 陶工房「雲」 作陶展

● 11月23日(火)～12月5日(日) 西村俊彦 作陶展

● 12月7日(火)～12月19日(日) 岩本倫子 作陶展

● 1月1日(土)～1月23日(日) 陶雛展

● 1月25日(火)～2月6日(日) 八十島窯 作陶展

● 向山窯 0296-72-0194

● 丹野陶房 0296-72-4028

● 陶芸館 0296-72-6650

● ギャラリー陶正 0296-72-4007

● 東風舎 0296-72-5205

● 無限堂 0296-72-1695

● やまさき陶苑 0296-72-6865

● 涼 0296-72-0712

● ミュージアムショップ(館内) 0296-72-7105

● 10月16日(土)～1月16日(日)

「笠間陶芸大賞展」関連作品販売

● レストラン「風の丘」(館内) 0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。)笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

友の会からのお知らせ

会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験をしたい・・・そんなあなたの期待に応えます。

年会費 3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1** 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典4** 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典5** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 / FAX 0296-70-0012

編集後記

すがすがしい秋になり、どこか遠くに出かけたくくなります。新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種も進んでいますが出かけるときはマスクを忘れずに。

友の会だより No.65

発行：令和3年10月1日
編集・発行：茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員：小薬 和子 鈴木 充